URP Osaka City University
Newsletter
Issue 33, Nov.2016
大阪市立大学 都市研究プラザ ニューズレター第 33 号 2016 年 11 月

都市研究プラザ 10 周年記念国際シンポジウム
「復元力（レジリエンス）のある都市をめざして——アジアと欧州を架橋する先端的都市論」開催報告
Urban Research Plaza 10th Anniversary International Symposium
Towards a Resilient City: Bridging Urban Theories between Asia and Europe

開会挨拶を行う荒川哲男本学学長

都市研究プラザは開設 10 周年を記念して、国際シンポジウム「復元力（レジリエンス）のある都市をめざして：アジアと欧州を架橋する先端的都市論」を、2016 年 9 月 22 日（木・祝）～24 日（土）の 3 日間、大阪国際交流センター、グランフロント大阪、本学学術情報総合センター、および大阪市内の現場プラザにて開催した。

21 世紀の都市では、格差と貧困・マイノリティ差別・手ごろな住宅の不足・移民・孤独・少子高齢化・エコロジーといった問題が深刻化している。この課題への最新の取り組みを、「レジリエンス」をキーワードに共有することが本シンポジウムでの大きなねらいであった。

1 日目午前は、荒川哲男本学学長の開会挨拶のあと、共催団体の藏野芳男・大阪国際交流センター理事長、阿部昌樹・都市研究プラザ所長の挨拶を受け、B.シェルトン（シドニー大学）、L.コン（シンガポール大学）、C.ケストロート（ルーヴェン・カトリック大学）による基調講演を行った。基調講演を受けた午後は、文化創造と復元力（司会：B.シェルトン&岡野浩（大阪市立大学））、アートと復元力（司会：L.コン&中川眞（大阪市立大学））、ローカルな多様性と復元力（司会：C.ケストロート&水内俊雄（大阪市立大学））の 3 つのセッションを実施した

2 日目午前は、都市とアートを主題とする 3 つのセッションを並行して行った。午後からは西成、船場、豊崎の各現場プラザで、都市やアートをテーマにした研究発表やエクスカーションを、水内俊雄（大阪市立大学）、中川眞・高岡伸一（同）、藤田忍・小池志保子（同）が各主担となって実施した。豊崎では中崎町や豊崎の町歩きを実施し、あわせて岡山恵美子（メルボルン大学）、小池志保子（大阪市立大学）が報告を行った。

3 日目は、杉本キャンパスで、「文化の創造性と復元力（レジリエンス）：ヒト・モノ・コト・記憶の関係性」をテーマにした報告と展示を終日実施し、關淳一・日本 WHO 協会会長が「美章園の思い出 關一と美章園について」と題した報告を行った。また、地域社会や行政の取り組みがコミュニティの復元力をいかに活性しているかを大阪市や奈良県の事例を中心に議論した。

グランフロント大阪会場の午前のセッションでは、都市研究プラザが海外センターとともに毎年実施する「東アジア包摂都市ネットワーク」に集う海外実践家と研究者を招き、韓国・香港・台湾の住宅問題やホームレス問題の最新状況と今後の展望を議論した。午後からは、国際研究集会「北欧とアジアに学ぶ刑務所出所者の社会的包摂」を行った（詳しくは次ページを参照）。3 日間の参加者（のべ数）は 22 日が 120 名、23 日が 80 名、24 日が杉本キャンパス 50 名、グランフロント大阪 120 名であった。

本シンポジウムは、文部科学省共同利用・共同研究拠点形成事業費補助金「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～スタートアップ支援」（大阪市立大学先端的都市研究拠点）の事業の一環であり、独立行政法人国際交流基金、公益財団法人社会科学国際交流江草基金、公益財団法人大林財団、公益財団法人野村財団（敬称略）の助成を受けて行われた。

■箱田徹（URP 特任助教）
■クルムズ・メリチ（URP 特別研究員〔若手・先端都市〕）

The Urban Research Plaza (URP) organized an international symposium on “Towards a Resilient City: Bridging Urban Theories between Asia and Europe” from 22 to 24 September celebrate its year anniversary. By bringing together academics specialized in various aspects of urban issues, themes such as poverty, minorities, housing, aging, ecology and creativity were addressed under the encompassing concept of resilience. The symposium, welcoming more than 370 attendants in total, was held in several venues of Osaka.

３日目午後の、「インクルーシブな地域づくりの構想に向けた国際共同の研究集会　北欧とアジアに学ぶ刑務所出所者の社会的包摂」では、浜井浩一（龍谷大学矯正・保護総合センター）をコーディネーターに迎え、アンジェリカ・シャフト（オスロ・アケシュス応用科学大学）、ハンス・ヨルゲン・ブリュッカー（ノルウェー矯正大学校）、アンネ・セィット（香港社区組織協会）、手塚文哉（法務省大阪矯正管区）、松田慎一（NPO 法人大阪府就労支援事業者機構）、水内俊雄（URP）が登壇した。

特筆すべきは、ノルウェーの刑務所では、受刑者が出所後、社会生活を営むうえで「何が問題か」を把握し、その問題の解決にむけて、一人ひとりのニーズに沿ったきめ細やかな支援がおこなわれるなど、つねに受刑者の社会復帰が強く意識されている、という点である。また、刑務官の養成・教育にも、犯罪学や人権論などがとりいれられ、刑務所社会とその外の社会とのつながりが強く意識されていたことも印象的であった。他方、日本でも、島根あさひ社会復帰促進センターをはじめ、地域社会にひらかれ、住民とともに生きる施設運営の重要さが認識されつつあることが確認された。さらに、民間の諸機関を含めた多機関が連携して出所者を支えていくことの必要性もまた指摘された。

近年、日本においては、司法と福祉との連携が進み、出所者の社会復帰に「支援」が必要なことが周知されてきた。ノルウェーから学ぶべきことは、刑務所に閉じ込めることの限界を知るとともに、刑務所を出たあとのかれらの生活に目をむけることにある。刑務所社会をその外の社会とできるだけ近づける努力をし、出所者に必要な支援は、特別な処遇ではなく、一人の人間に対する生活支援である、ということを本シンポジウムの企画者として改めて痛感した次第である。

■掛川　直之
（URP 特別研究員
〔若手・先端都市〕）

24 日「文化の創造力と復元力」

24 日「国際共同の研究集会」

閉会あいさつを行う阿部 URP 所長

・本シンポジウム内容は URP レポートとして刊行予定です。

・次号でも内容を紹介します。

大阪市立大学都市研究プラザ10周年記念国際シンポジウム

復元力（レジリエンス）のある都市をめざして

―― アジアと欧州を架橋する先端的都市論

URP 10th Anniversary

プログラム

9月22日［祝］

大阪国際交流センター 小ホール
（大阪市天王寺区上本町 8-2-6 / 06-6772-5931）
地下鉄「谷町九丁目」「四天王寺前夕陽ヶ丘」、近鉄「大阪上本町」歩 10 分

8:45　開場
9:15　開会挨拶（荒川哲男・大阪市立大学学長）
9:30 ― 12:00
基調講演（同時通訳：英・日）

1. アーバン・デザインからの展望
――文化の境界を越え空間認識を拡大するために
バリー・シェルトン
（シドニー大学名誉教授・建築デザイン）

2. アート・文化と復元力（レジリエンス）のある都市にする
リリー・コン
（シンガポールマネジメント大学学長）

3. 都市移住の政治経済学
――ブリュッセルを事例に
クリス・ケストロート
（ルーヴェン・カトリック大学教授・地理学）

13:00― 18:30
メインセッション（同時通訳：英・日）
文化創造、アート、ローカルな多様性とレジリエンス（3 部構成）
庵原悟（東京工業大学）、大杉栄嗣（大塚オーミ陶業）、古田希雄（各務原市役所）、片山弘紀（ミロク・テクノウッド）、イファダ・アリヤニ（インドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校）、ミミ・サフィトリ（ガジャマダ大学）、ポーンプラピット・パオサワット（チュラロンコン大学）、前田茂樹（大阪工業大学）、マイク・ラコ（ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン）、福本拓（宮崎産業経営大学）、陳映芳（上海交通大学）

23日［金］

【モーニング・セッション】
大阪国際交流センター会議室
【アフタヌーン・セッション】（申込必須）
都市研究プラザ「現場プラザ」（大阪市内）

9:30 ― 12:45　（9:00 開場）
モーニング・セッション
（英・日（資料は日英2言語））
1. 都市空間再編下のしたたかなまち再成
2. 社会に関与するアートとデザイン
3. 植物園とレジリエンス
ステイン・オーステルリンク（アントワープ大学）、沼田里衣（都市研究プラザ）、山田創平（京都精華大学）、堀口徹（近畿大学）、雨森信（都市研究プラザ）、遊佐敏彦（奈良県立医科大学）、寺浦薫（大阪府）、フランツ・ヴァルデンベルガー（ドイツ日本研究所）、ハン・フン（ニューサウスウェールズ大学）、イ・ビョンジュン（釜山大学）、吉田大介（創造都市研究科）、森一彦（都市防災教育研究センター）、本田洋一（斑鳩町役場）、河本大地（奈良教育大学）、グイド・フェリーリ（ミラノIULM大学）他

13:30― 18:00
アフタヌーン・セッション
（逐次通訳：日・英）
西成プラザ（JR「新今宮」歩 1 分）
「レジリエンスと多様性都市」ワークショップ

豊崎プラザ（谷町線「中崎町」歩 10 分）
大阪くらしの今昔館・豊崎・中崎町エクスカーション

船場アートカフェ（堺筋線「北浜」歩 5 分）
アート・パフォーマンスと室内ワークショップ

24日［土］

グランフロント大阪北館タワーＣ８階 ナレッジキャピタルカンファレンスルーム タワーＣ　ＲｏｏｍＣ　０３+０４
（大阪市北区大深町３－１ / 06-6372-6417）
JR「大阪」・各線「梅田」歩 3 分

9:30 ― 11:50　（9:00 開場）
（日本語逐次通訳：英・中・韓）
先端的アジア都市論連続企画
包摂都市を構想する――包摂型アジア都市論の挑戦
アンネ・セィット（香港SoCO）、李盈姿（台湾・芒草心慈善協会）、南垣碩（ソウル研究院）、黄麗玲（国立台湾大学）、タン・ウィンシン（香港浸会大学）

13:00 ― 17:00　（同時通訳：英・日）
北欧とアジアに学ぶ刑務所出所者の社会的包摂――インクルーシブな地域づくりの構想に向けた国際共同の研究集会
浜井浩一（龍谷大学）、アンジェリカ・シャフト（ノルウェー労働・福祉局）、ハンス・ヨルゲン・ブリュッカー（ノルウェー矯正研修所）、アンネ・セィット（香港社区組織協会）、手塚文哉（法務省大阪矯正管区長）、松田慎一（NPO 法人大阪府就労支援事業者機構）、水内俊雄（都市研究プラザ）

大阪市立大学学術情報総合センター 10階会議室
（大阪市住吉区杉本3-3-138 / 06-6605-3211）
JR「杉本町」歩 3 分

9:00 ― 17:00　**文化の創造性と復元力（レジリエンス）**
（スピーチセッション（日本語中心・状況に応じて英語要約））
地域の復元力、木／土と教育の復元力、メタセコイアと文化の復元力、ギターの復元力

※展示セッションを10階で終日開催

第６回東アジア包摂都市ネットワークワークショップをソウルで開催

The 6th East Asia Inclusive City Network Workshop in Seoul

2016 年 8 月 8 日（月）～10 日（水）、大韓民国ソウル特別市にて「第 6 回東アジア包摂都市ネットワークの構築に向けた国際ワークショップ」が開催された（主催：Korea City and Environment Research Center (KOCER)、大阪市立大学都市研究プラザ、共催：The Seoul Institute、Seoul Housing (SH) Corporation、後援：Seoul Metropolitan Government、Siheung City Government、Seongdong District Office）。

このワークショップのテーマは、低成長時代にふさわしい住宅の供給、都市貧困層集住地域における立ち退き、ホームレス支援など多岐に渡り、現状と課題を共有する国際的プラットフォームを築くことを目指している。今回も例年通り、日本、韓国をはじめ、香港や台湾からも研究者や実践者が出席した。都市研究プラザとしても、行政や NPO との連携を今まで以上に密なものにするために、大阪市、堺市、八尾市などから行政関係者を招待した。登壇者の数だけでも合計 29 名、訪問先の現場を案内していただいた方を含めれば参加者は 100 名近くを数えたであろう。全体のプログラムは別表のとおりである。

初日は SH 公社の Byeon Changheum 氏による招待講演で幕を開けた。続く大邱大学の Choi Byungdoo 氏は基調講演「都市一般住民の負債危機と都市権」の中で、都市の経済的に対応するためには、都市に蓄積された資本を民主的に管理しなければならないという問題を提起した。分科会 1 では、都市低所得者層に対する住宅供給の問題点が多数指摘されるとともに、さまざまな解決方法の提言がなされた。分科会 2 では、建築工房匠屋の大崎元氏が「つながって住む家とまち―ハウジングファーストに向けた地域居住支援のつながり」と題して、山谷においてケア付き住宅を運営する NPO の活動を紹介し「一緒に住む」ことの意味と可能性を論じた。分科会 3 では、NPO 法人すまいるセンターの西上孔雄氏が「障がい者とともに育む地域づくり―泉北ニュータウン商店復活の取り組み」と題して、社会から排除されがちな存在が、地域の課題を解決することを通して地域を変えていくという形のまちづくりのモデルを提示した。韓国や香港、台湾の事例の発表も総じて迫力があり、この政策的課題の巨大さを痛感させられると同時に、登壇者の真摯な姿勢に希望を見出すことができた。

■綱島洋之（URP 特任助教）

◆第 6 回東アジア包摂都市ネットワークワークショップ　プログラム◆

〇8 月 8 日：招待講演・基調講演
　　分科会 1・低成長時代における適正価格住宅不足の解消
　　分科会 2・条件不利層のための住宅補修（低所得世帯のための空き家改修）
　　分科会 3・ジェントリフィケーションが引き起こす問題の解決（集団移転を防ぎ住民と賃借人を守る）
〇8 月 9 日：現場視察（始興市 Mokwa 村，ソウル市城北区，SH 公社）
〇8 月 10 日：基調講演
　　分科会 4・包摂都市を目指して
　　分科会 5・ホームレス支援
　　総括討論

第６回を迎えた本ワークショップであるが、今回の最大の特色は自治体関係者の参加である。研究や実践の現場からはもとより、施策を展開する自治体関係者の参加は本ワークショップのあらたな展開と方向性を示すものである。また、公の立場からの都市問題へのアプローチの知見を得ることができ、公と民の実践の現場、そして、理論とを架橋するものになりえる。日本からは大阪市、堺市、八尾市、韓国から始興市長、ソウル市城北区長、台湾からは台北市都市発展局住宅企画課長が参加した。

２日目のエクスカーションでは、始興市長が同市内で住民が主体となってつくれらた集合住宅にて実際に案内するという機会もあった。それ以外にも、ソウル市城北区内でのジェントリフィケーション防止条例の対象区域や、ソウル市内のSH 公社による芸術家向け住宅などを訪問し、都市における包摂にむけた多様なまちづくりの知見を得た。

３日目には、各国・地域の自治体の立場からの住宅政策やまちづくりにかんする報告が行われたが、始興市長、ソウル市城北区長からの報告は、実際に現場を訪問した後であり、より理解を深めるものとなった。

次年度のワークショップは大阪で開催の予定である。

■鄭栄鎭（URP 特任助教）

キム・ユンシク始興市長

今ワークショップにて、八尾市は、市民の生活に必要な身近なサービスを提供する基礎自治体として、外国人市民を含むすべての市民が教育、保健、医療、福祉、防災など日常生活に必要な行政サービスを受けることができる、多言語による情報提供や相談支援などの多文化共生施策の取り組みについての報告を行いました。

ワークショップ全体での日本からの各報告は、少子高齢化、就労支援、住居支援などに対して制度や仕組みといったソフト面からのアプローチや取り組み内容が多く見られました。また、韓国、台湾、香港の各都市での実践では、住居福祉実態調査を実施して計画を策定した都市再生を行う取り組みや低所得者住宅のリノベーション、民間借り上げ住宅など民間部門を活用した住宅供給主体の多様化、旧住民と新住民をつなぐ芸術家が入居するコーポラティブ的な共同住宅、環境問題等の社会的課題に新たなビジネスとして取り組む若き経営者らの取り組み、都市再開発で居住地を追われた住民自らのコミュニティづくりなどの報告が行われました。

これらを通じて感じたのは、大学を含む研究機関、地域住民、市民活動・非営利団体、地方自治体（行政）などのそれぞれのセクターをゆるやかにつなぐ、互いの役割を認め合いながら、協働を引き出す力を備えたリーダーの必要性です。それぞれの活動のみならず、セクターの垣根を越えて、横断的に共に考えて知恵を出し、汗をかくことを継続して、積み上げることが今後、ますます複雑になる都市における社会課題の解決に向けて有効であり、多様な人々が関心を持ち、関わる機会を多く提供できることになると考えます。

最後に、今回の夏の暑いソウルでの熱いワークショップを終え、各国の地方自治体を、それぞれの場で対立する関係としてとらえるのではなく、共に社会的課題の解決に向けたネットワークの新たなプレーヤーの一員として大らかに迎えられるよう、お願いしたいです。

■網中孝幸（八尾市人権文化ふれあい部次長）

From 8 to 10 of August, Korea City and Environment Research Center (KOCER) and the URP co-hosted “The 6th East Asian Inclusive City Net Workshop” in Seoul under the joint sponsorship of The Seoul Institute and Seoul Housing (SH) Corporation, with the support of Seoul Metropolitan Government, Siheung City Government and Seongdong District Office. The mission of the workshop is to establish a platform for participants, not only from Korea and Japan but also from Taiwan and Hong Kong, to discuss academically and pragmatically challenges and advancements in regard to housing and welfare policies for socially disadvantaged communities in urban areas of each country. The themes of the workshop included affordable housing, gentrification, urban poverty and assistance for homeless people. The URP invited several practitioners and government officers from Osaka, Sakai and Yao Cities. On the second day, we visited some social entrepreneurs, management agency of public housing, and people expelled by a housing development plan. The remaining two days we held indoor sessions on the topics mentioned above..

先端的都市研究拠点 第１回夏季セミナー@ソウルを開催

A Platform for Leading-Edge Urban Studies 1st International seminar @ Seoul

大阪市立大学先端的都市研究拠点によって、包摂型アジア都市論の拠点形成に向けた若手人材育成事業の一環として今年度から開始され、8 月 11 日から 13 日までの 3 日間の日程でソウルにて開催された。本年のテーマは韓国でのまちづくりと包摂型都市の実践ということで、都市研究プラザ・ソウルセンターの協力および韓国内の協定機関との連携のもとでの充実したセミナーとなった。参加したのは URP 特別研究員（若手）の沼田里衣、HSIAO Hong-Wei、掛川直之、武岡暢の 4 名である。

日程 1 日目の 8 月 11 日にはまず､都市研究プラザと学術交流協定を結んでいるソウル研究院を訪問し、研究院長である Kim Soo-hyun 氏からソウル市の課題ならびにソウル研究院、ソウル市の取り組みについてレクチャーを受けた。若年失業率の高さ、住宅問題等、ソウルにおける特徴的な現象についての見取り図を最初に得られたことは、本セミナーのプログラム全体を見通す上で有意義であった。次に同日午後には城東協同社会経済推進団を訪問し、草の根の活動について実地に見学する機会を得た。同団は城東地域におけるスラムクリアランスならびに再開発に対する反対運動に淵源をもち、住民銀行の経営を含む多様な活動へと展開していった実績を有する。生協の店舗や、地域の大学と協同して運営される「ファッション社会的協同組合」の見学などは、ソウルにおける包摂型まちづくりの力強さと同時にそうした取り組みが決して容易なものではないことにも気づかされる経験であった。

日程 2 日目､8 月 12 日の午前はソウル市立大学を訪れ､イ・ジュホン教授からソウル市の取り組みとしての「洞住民センター」について説明を受けた。区の下位区分に当たる「洞」をベースにした新しい住民センターは、受動的に行政サービスを提供するのみならず、困難な状況に置かれた住民に能動的に働きかけを行うことを特徴とする、注目すべき取り組みだ。同日午後は韓国保健社会研究院の No Daemyung 氏から韓国の社会保障制度について講義を受けた。さらに同日、ハジャセンターという若年層の職業体験型総合文化施設を訪れた。日本では人口に膾炙した「引きこもり」の現象などは、韓国ではいまだ一般に認知されるには至っていないという。

最終日の 3 日目､8 月 13 日はチョッパンと呼ばれる狭小な住宅密集区域を訪れ、現場での取り組みについて話を伺い、実際に建築の内部を見学させて頂いた。建築基準法による規制を受けていないためにきわめて狭隘な建造環境となっており、実地にこうした空間を見学できたことは強烈な経験となった。

以上のように、本セミナーは第一線の研究者や実務家からのレクチャーと、実地の見学がきわめてバランスよく配置されており、様々な角度から「都市」と「包摂」の問題に取り組む都市研究プラザの若手研究員にとってきわめて有意義なものであった。

■武岡暢（URP 特別研究員〔若手・先端都市〕）

The seminar was held as a part of the human resource development of GCOE research fellows in URP from 11 August to 13, 2016 in Seoul, Korea. URP is focusing on building up the stronghold for inclusive Asian urban studies and the seminar was expected to contribute for it. Four GCOE research fellows participated, NUMATA Rii, HSIAO Hong-Wei, KAKEGAWA Naoyuki, and TAKEOKA Toru. The theme of the seminar was community organization and the practice of inclusive city in Korea.

On the first day, we visited The Seoul Institute and got lectured by the president of the Institute, Dr. Kim Soo-hyun, about urban problems and provisions of Seoul City. Then in the afternoon we went to Seondong-gu and observed various activities of a social economy promoting NPO there. On the day two, we made a visit to University of Seoul and Dr. Lee Jooheon explained the activity of community centers. After that, we had also a lecture about Korean social security institute from Dr. No Daemyung of Korea Institute for Health and Social Affairs and went to observe Haja center, a cultural institute for occupation experience. And the last day, we visited “jjokbang” deprived area, which consists of very tiny spaces to live in.

単行本シリーズ *Creativity, Heritage and the City* の一冊目が刊行されました

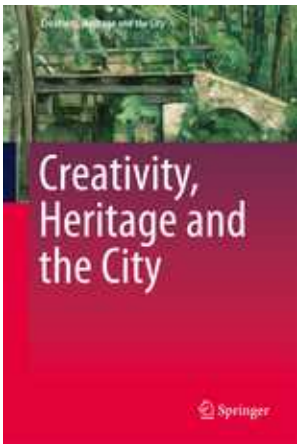
Launching Springer Book Series *"Creativity, Heritage and the City"*

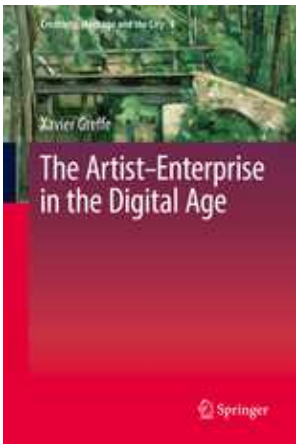
このたび、シュプリンガー社（Springer, NY）から AUC 幹部を中心とするメンバーで、Creativity, Heritage and the City と題するシリーズ本を出版することとなった。エルゼビア社（Elsevier）からの国際ジャーナル City, Culture and Society の枠組みを踏襲しつつ、都市創造性や（文化）遺産、さらには社会開発と世界の各都市との関係性に焦点を当てたものである。とりわけ、文理融合や分野横断的な手法により、都市文化デザインのマネジメントやガバナンスに関する実践や理論について一定のまとまりを持たせた単行本のシリーズである。このシリーズの第１冊目として、パリ第一大学（ソルボンヌ）名誉教授のグザビエ・グレフ（Xavier Greffe）による Artist Enterprise が刊行された。編集組織と方針は以下のとおりである。単行本シリーズを積み重ねつつ、1200 頁を超える Handbook や Encyclopedia（各全３巻）にまとめることが求められている。多くの提案をお寄せいただきたい。

（http://www.springer.com/series/13785）

■岡野浩（URP 専任研究員／経営学研究科教授）

Editor-in-Chief
Hiroshi Okano (Professor, Urban Research Plaza, Osaka City University) Osaka
Editors
Francesco Bandarin (Assistant Director General for Culture, UNESCO, Professor of IUAV Venetia) Venetia
Marisol García Cabeza (Professor, Universitat de Barcelona) Barcelona
Xavier Greffe (Emeritus Professor of the University Paris I Panthéon-Sorbonne) Paris
Lily Kong (Provost, Singapore Management University) Singapore
Klaus Kunzmann (Emeritus Professor of Dortmund University, Germany) Dortmund
Edmond Préteceille (Emeritus Professor of Sciences Po, Senior fellow of The Observatoire sociologique du changement, President of Association for Urban Creativity) Paris
Hans Thomsen (Professor and Chair, Institute of Art History, University of Zurich) Zurich
Minoru Tsukagoshi (Chief Curator, Osaka Museum of Natural History) Osaka





Aim and Scope

Cities are faced with various problems, including terrorism, energy challenges, and environmental issues, as well as inter-urban competition brought about by expanding globalization forces. What is required is to gather theoretical insights from various scientific areas, not only social science– humanities but also natural science, and connect them to the practical insights already gained through numerous efforts to deal with these issues on the ground. In this way, paradigms for urban creativity can be developed and we can start to accrue dependable practice and theoretically based intelligence that can be used for improved policymaking. The keywords for this book series are "urban creativity", "(cultural) heritage", and "social development". Developing cultural heritages and natural resources so as to take the lead in evaluating, implementing, and suggesting urban or regional designs that harmonize ecology, society, and people, and to further develop urban and regional culture is essential. There is a particular focus in this book series on fostering individuals who can design, manage, and direct models, technologies, and tools for promoting interfaces between such actors as policymakers, urban planners, engineers, and residents. The above-stated goals can be implemented through cooperation with international research communities and networks, international organizations, and natural history institutions, academies of science, and research institutes.

■先端都市学講座

日時：2016年11月26日（土）15時～17時
場所：大阪市立大学都市研究プラザ西成プラザ
（JR新今宮駅東口徒歩1分）
＊詳細は都市研究プラザウェブサイトでごらんください。

■URP 若手・先端都市特別研究員公募
募集要項（平成 29 年 2 月募集分）は 2017 年 1 月に公表を予定しています。
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html
■URP-Newsletter 次号は 2017 年 2 月に発行予定です。

URP
Osaka City University 大阪市立大学 | Urban Research Plaza 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が 2006 年 4 月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。先端的都市研究拠点として、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/

大阪市立大学都市研究プラザ　ニューズレター　第 33 号
編集長（発行責任者）阿部昌樹
副編集長　水内俊雄　岡野浩　全泓奎
編集主幹　鄭栄鎭　尾形由記
http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138　tel.06-6605-2071
e-mail：office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp
所長　阿部昌樹　　副所長　水内俊雄　加幡真一
ユニット長　1U 阿部昌樹　2U 嘉名光市　3U 水内俊雄　4U 岡野浩